

## 謹賀新年



---

### 今月の主な内容

---

- 新年のご挨拶
- 相互交流事業 ニュージーランド派遣
- 税の書道・標語入賞作品

### 今月の表紙

湧別川に咲く花 フロストフラワーに降り注ぐ日の出  
皆さまに幸せの花が咲く年になりますように

# 新年を迎えて

湧別町長

刈田 智之



新年明けましておめでとうござい  
ます。

令和6年の幕開けにあたり、心よ  
りお慶び申し上げます。

昨年5月、新型コロナウイルス感  
染症が5類感染症へ移行となり、私  
たちはコロナウイルスとの共生を始  
める大きな一歩を踏み出しました。  
新しい日常を迎え、国内外ともに人  
流や物流は飛躍的に増加し、経済活  
動の活性化や社会の自由度の向上を  
感じておりますが、今後とも皆さま  
の健康と安全の確保に努めてまいり  
ますので、皆さまにおかれましては  
引き続き場面に応じたマスクの着用  
や手指の消毒など、基本的な感染対  
策をお願いいたします。

また、昨年はかつてない猛暑に見  
舞われ、地球温暖化よりレベルの高  
い「地球沸騰化」の時代を迎えたと  
もいわれ、この世界的な異常気象を  
食い止めるためには、私たち一人ひ  
とりが環境に配慮した行動を心がけ  
ることが重要であります。本町と  
いたしましては、再生可能エネル  
ギーの利用促進や省エネルギー対策  
の強化など、環境に優しい政策の推  
進と、自然災害の脅威に備えた防災  
体制の充実を図っております。

社会情勢においては、昨年8月、  
福島第一原発のALPS処理水の放  
水にともない、中国が日本の水産物  
の輸入を全面的に停止したことは、  
豊かな海の恵みに支えられてきた本  
町にとって大きな問題であります。  
地元の特産品であるホタテをはじめ、  
水産物の積極的な消費拡大にご協力  
いただいております。皆さまには心よ  
りお礼申し上げます。国際原子力機  
関においても、ALPS処理水によ  
る人体や環境への影響はほとんどな  
いといわれており、今後も地産地消  
の推進とともに、地元水産物は安全  
であること、なによりおいしくて  
栄養豊富であるという最大の魅力を  
広く発信し、消費拡大に向けた取り  
組みを行ってまいります。

また、長引くウクライナ紛争の影  
響により、依然として続いておりま  
すエネルギー価格や物価の高騰の問  
題につきましても、国や北海道など

関係機関との連携を図りながら、町  
民の皆さまの生活を守る施策を進め  
てまいります。

昨年は、WBCでの侍ジャパンの  
世界一奪還やメジャーリーグにおけ  
る大谷翔平選手の活躍など、世界を  
舞台に戦う日本人選手の方々が国民  
に深い感動と誇りを与えてくださ  
いました。一方、令和2年の夏、新型  
コロナウイルスの影響で甲子園が中  
止となり、多くの高校球児の夢が奪  
われましたが、昨年11月、彼らの諦  
めない強い思いが、夢の甲子園での  
大会を実現させました。これは、コ  
ロナ禍で生まれた結束力の象徴であ  
り、困難な時こそ互いの支えが必要  
であり、共に立ち向かう力がいかに  
して私たちの社会を強固なものに変  
え得るかを認識させてくれました。

本年、湧別町は合併15周年の節目  
を迎えますが、これもひとえに町民  
の皆さまのご支援とご協力の賜物で  
あります。私たちはこれまで多くの  
課題に直面しながら、共に成長し発  
展を遂げてまいりました。これから  
も今までの経験<sup>た</sup>を糧に、湧別町のさ  
らなる繁栄のため邁進してまいりま  
すので、皆さまもより一層のご理解  
とご協力をお願いいたします。

令和6年が皆さまにとりまして、  
力強く天を駆ける龍のように、新た  
な飛躍の一年となりますようお祈り  
申し上げます、新年のご挨拶といたしま  
す。

## 謹賀新年

皆さまのご健康とご多幸を  
心からお祈り申し上げます

湧別町

町長 刈田 智之  
副町長 因 洋史

湧別町教育委員会

教育長 阿部 勉

湧別町農業委員会

会長 吉村 智之

湧別町選挙管理委員会

委員長 森 谷 重俊

湧別町監査委員

代表 水野 豊

湧別町消防団

団長 伊藤 務

# 新年のご挨拶

## 湧別町議会議長

### 村田 一志



新年明けましておめでとうございます。

町民の皆さまにおかれましては、希望に満ちた輝かしい新春を迎えられたことと、心からお慶び申し上げます。日頃より、議会運営に對して多くのご支援とご協力をいただいておりますこと、深く感謝申し上げます。新年を迎え、議会としての責任の重さを改めて感じるとともに、本町のさらなる発展のために引き続き努力してまいりたいと決意を新たにいたします。

さて、昨年は5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、徐々にコロナ前の生活を取り戻してきて

はおりますが、各種イベントは感染対策を実施した上での開催が必要な状況でありました。

そのような中においても、屯田七夕まつり、盆踊り、産業まつりなど、町民の皆さまが楽しみにしていたイベントを開催することができたことにつきましては、喜びとともに開催する関係者の皆さまの努力に對し、感銘を受けたところです。

昨年はロシアとウクライナの紛争、ハマスとイスラエルの衝突など、世界各地での紛争が続く、またその影響による物価上昇や燃料の高騰など、暗い影を落とす話題が多い1年だったのかもしれない。

そのような中でも、待ジャパンによるWBC優勝や井上尚弥選手のボクシング4団体統一チャンピオン、将棋の藤井聡太棋士の8冠制覇など、日本の若き才能が次々に活躍し、私たちに感動を与えてくれました。

本町でも、ゆうべつ学園の齋藤瑠来さん、本町出身で國學院大学の藤本竜さんが全国都道府県対抗男子駅伝競走大会に出場、登床出身の関野剛平さんがバスケットボールB1リーグレバンガ北海道の選手として5期ぶりに復帰され活躍するなど、若き才能を大いに感じたところであり、今後の活躍も期待するところがあります。

さて、皆さまもご存じのとおり、

8月の東京電力福島第一原発のALPS処理水放水による中国の輸入禁止策により、特産品であるホタテの出荷に影響を及ぼすことが懸念されており、漁業経営に對する不安の解決がいまだ見いだせない状況にあります。

また、飼肥料の高騰や牛乳の生産調整などにより、特に酪農業においては厳しい状況が続いており、本町の基盤産業である一次産業への影響が深刻となっております。

物価上昇、燃料高騰は町民皆さまの生活にも負担となっており、町、議会、関係団体などが一体となって乗り越えなければならぬ時と感じております。

子どもからお年寄りまで安心して暮らすことができる環境の整備、地域を支える産業の振興や人材の育成・確保など本町が抱える課題の解決に向け各施策の取り組みを推進し、住み続けたいと思えるようなまちづくりに向けて、これまで以上に効率的な行政運営に努めるとともに、適切なタイミングで有効な施策が実施できるよう、皆さまの負託に応えるためにも議員一丸となってより一層努力してまいります。

結びに、本年が皆さまにとって、実り多き年でありませう、ますますのご健勝とご多幸をご祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。

謹んで

新春のお慶びを申し上げます

湧別町議会

議長

村田 一志

副議長

山本 栄子

総務厚生常任委員会委員長

高田 映二

産業文教常任委員会委員長

小形 秀和

議会運営委員会委員長

脇坂 敏夫

議員

関野 一良

加藤 政弘

村川 勝彦

下田 英人

酒井 純一

檜山 洋一

# 相互交流事業 ニュージーランド派遣



11月6日から16日までの11日間、中高生9人、一般1人、引率者3人の13人が、友好都市であるニュージーランドのセルウィン町などを訪問しました。

ホームステイ、通学、各種行事など、さまざまなことを体験し、学んできた派遣者のレポート（抜粋）をご紹介します。

※紙面の都合上、抜粋して掲載しています。  
全文は、町ホームページと図書館で公開していますのでご覧ください。

町ホームページ



この事業はサマージャンボ宝くじの収益金を活用して実施しています



## ～ ニュージーランド派遣レポート（抜粋）～

### ニュージーランド派遣を終えて

湧別高校 1年 廣井 航希 こうき



私はニュージーランドに行く前に3つの目標を立てました。海外の人とのコミュニケーションと英語を学ぶこと、ニュージーランドの文化について知ること、ニュージーランドの家での生活について学ぶことを目標としてニュージーランドへ行きました。

1つ目の海外の人とのコミュニケーションと英語を学ぶということについては、ホストファミリーや学校での友達との会話を通して、目標を達成することができました。ニュージーランドの人は、明るく元気に話していたり、いろいろな人に話しかけていたりして、日本との違いに驚きました。最初は英語がなかなか聞き取れなかったのですが、数日経つと少しずつ聞き取れるようになりました。さらに、日常的に使う単語も学ぶことができました。バディとホストファザーと一緒に家の前でテニスやラグビーをしたのですが、言葉があまり伝わらなくてもジェスチャーなどで伝わり、とても楽しむことができました。今回の研修では、初めての海外で分からなかったことだらけだったのですが、ホストファミリーの方が優しく教えてくださり、とても楽しむことができたし、良い経験になりました。また、今まで知らなかったことを知り、日本との違いを学び、私の世界観が変わりました。

### ニュージーランド派遣を通して

湧別高校 2年 橋本 理加 りか



私はニュージーランド派遣で積極的に話しかけに行く、英語でコミュニケーションをとることの楽しさ、日本

とニュージーランドの文化の違いを学び体験し知識をつけることを目標に過ごしました。

実際にニュージーランドに行くとみんなコミュニケーション能力が高く積極性があり日本人とは全く違うなと感じました。ですが自分なりに話しかけに行くことが出来たと思います。マオリの文化を学ぶ日があったり、ドイツアールでいろいろな場所に行きました。そこで文化やニュージーランドでしか出来ない体験ができました。ホストファミリーとお菓子作りをしたり、ご飯作りの手伝いをしたり、ビーチに行って遊んだりしてたくさんの思い出を作ることが出来ました。これらのことからおおむね目標は達成できたと思います。英語が分からないなりにコミュニケーションがとれるよう、質問したり分からなかったら翻訳に頼るなどできるだけ多く会話ができるよう努力しました。

私がニュージーランド派遣で成長したことはリスニング能力が向上したことです。ニュージーランド人は思ったよりも話すスピードが早かったので、とても頭を使いました。そのおかげで最初は聞き取れなかったものが帰る頃には割と聞き取れました。話すことに関しては質問に受け答えができるくらいになりました。

### ニュージーランド派遣での経験

ゆうべつ学園 9年 岡島 まひる



私は今回のニュージーランド派遣で英語はもちろん、マオリの文化やニュージーランドのことをたくさん知ることができました。

マオリの文化では、実際に現地の生徒の人たちから歌を学んだりしました。その中で、歌を歌いながら身振り手振りを付けて踊ったりしました。私は覚えるのにすこし時間がかかりましたが、普段あまりこういう文化に触れたことがなかったので、新鮮でとても楽しかったです。そして、私がよく使っていた英語は、私が中学校2年生か1年生くらいの時に習った「Do you know～?」や「Can I～?」、「Please～?」などです。英語が上手だったり、ペラペラしゃべれるわけでもない私でも、こういう簡単な英語でコミュニケーションをとれてとてもうれしかったし、何より自分が言いたい事が伝わった時が特にうれしかったです。ホストファミリーも英語があまり得意でない私に、分かりやすく、ゆっくり言ってくれたりして、ある程度なら自分でも理解することができました。

私は今回のニュージーランド派遣で身に付けた他の文化の良さを知ったりすることや、英語のリスニング能力などをこれからの学校生活に生かしていきたいと思います。

### ニュージーランド派遣について

湧別高校 2年 高柳 天奈 てな

日本とニュージーランドでは、違うところがたくさんありました。まずおもしろいと感じたのが香りが違うということです。ニュー

ージーランドは建物内や人とすれ違った時に、ココナッツのような甘い香りがしました。国によってこんなに香りが違うのか不思議だと思いました。あとは、パッケージが小分けになっているお菓子が少ない印象でした。一度開けたらその後の保存をどうするのが気になるけれどゴミの量がそんなに多くならなさそうなので良いなと思いました。そして、ニュージーランド人は皆寝るのが早かったです。全体的にゆったりと過ごしていて、時間にゆとりのある生活を送っているのがすてきだなと思いました。

最後にまとめると、この研修を通して私は日本にいたままでは気付けなかったであろうことに気付くことができました。これは、実際に海外に行き、自分の目で直接見て、経験したからこそだと思います。また、ニュージーランドの事だけでなく、日本の良いところも再確認することができました。実は個人的にこれが一番重要だと思っていて、日本を離れてみないと分からなかったもので、価値観が広がりました。私は、ニュージーランド派遣に参加することができ、本当に良かったと思います。

ニュージーランド派遣を終えて

湧別高校 2年 木村 柊生<sup>しゅう</sup>

私は今回のニュージーランド派遣で、正しい英語の発音や話をする時のしぐさ、ニュージーランドに生息している植物や動物、文化の違い、マオリの4つを学ぶことを目的にしていました。他にも派遣の目的とは別で個人的にミドルネームをつけてもらいたいとも思っていました。



まず1つ目の目的である正しい英語の発音や話をする時のしぐさのことですが、ホストファミリーと最初に会話をした時に相手の英語がとても早くてほとんど聞き取れませんでした。なので初日はGoogle翻訳を使用してコミュニケーションをとるような形になってしまいました。しかし2日目からはだんだんと耳が慣れてきて、なんとなく話していることが分かるようになっていきました。そこで私は聞き取れさえすればある程度の質問に回答できるということに気づき、少し驚いたのと同時に事前研修などのこれまでの英語の学習が生きてきていると感じました。発音などは早すぎてよく分かりませんでした。しぐさや相づちなどはしっかりとみて学ぶことができました。

今回の派遣学習で私はとても視野が広がりました。他にもメンタル面も強くなったような気がしました。今後はこの貴重な経験を生かして英語検定に挑戦したり、いずれ海外に旅行に行ったりしようと思っています。

ニュージーランド派遣で学んだこと

湧別高校 3年 北村 千晴<sup>ちはる</sup>

初めて日本を出てニュージーランドで過ごした感想は、楽しくに尽きます。



ニュージーランドに行く前

からとても緊張していて、オークランド行きの飛行機が遅れてしまうハプニングもあり不安が大きくなっていきました。ホームステイ生活も最初は緊張でうまく話せませんでした。お土産を渡すととても喜んでくれて、それから私もうれしくなって自分から話しかけることも増えました。

ホストマザーのご飯はおいしく、食べやすいものでした。ホストファミリーには3人子どもがいていろいろな遊びをしました。よくやったのはUNOです。ルールが分かっているのでやりやすく、楽しかったです。また、映画を見たり、折り紙をしたりしました。折り紙は最初に鶴を折ったのですが、やはり難しいので簡単な紙飛行機などから作った方がいいと感じました。

休日はニュー・ブライトン・ビーチに行き、クライストチャーチでお土産をたくさん買いました。ニュー・ブライトン・ビーチは私が今まで見てきた海の中で1番透き通っていてきれいでした。家に帰ってから、東日本大震災の17日前に起こったクライストチャーチの地震について教えてもらい、その日行ったり通ったところが崩れている写真が何枚もありました。改めて地震の怖さについても勉強でき、良い経験になったと思います。ホストファミリーのおかげでホームステイを楽しく過ごすことができ、とても感謝しています。

ニュージーランドでの生活

遠軽高校 2年 高桑 彩<sup>あや</sup>

日本とニュージーランドは違うところがたくさんありました。例えば植生や生き物、生活習慣などです。車やバスで外を見ていると日本には無いものがたくさん見れておもしろかったです。ニュージーランドのものはとにかく大きかったです。木になっていた松ぼっくりが日本の5倍くらいの大きさで驚きました。



生活習慣に関しては、ニュージーランドでは三食しっかり食べるのではなく、朝、昼は軽く食べて夕食を多く食べるといった感じでした。朝、昼を軽食で済ませるのにはちゃんと理由があります。それは、10時にモーニングティータイムがあるからです。モーニングティータイムはクッキーやミートパイを食べながらおしゃべりを楽しむもので私も学校で体験しました。ちょっとしたリフレッシュになって体にも心にも良いので日本も取り入れるべきだと思います。

さらに、ニュージーランドの人はスマホやゲームより外に出て体を動かす方が好きなようで、家ではバスケットボールやトランポリンで遊んだり、休日にはテニスに行ったりしていました。私は体を動かすことが好きなので、この生活を楽しむことができました。いろいろな違いがあっても勉強になりました。

ニュージーランド派遣

遠軽高校 2年 奥山 亜子<sup>あこ</sup>

私の目標は、初めての文化、生活、食べ物、学校を体験することでした。今回毎日驚くことがたくさんあったので、ニュージーランドの

文化への理解を深めることができ、目標を達成できたと思っています。

私はもともと英語を勉強することが好きで、英語に興味があったのでコミュニケーションをとることを楽しみにしていました。しかし日常の英語はスピードが早くて聞き取れなかったり、即座に言いたいことを表せられなかったりして苦労しました。その中でもホストファミリーの方やティータイムを過ごしてくれた方々が、私たちに伝わるようにジェスチャーを使ってくれたり、ゆっくり話してくれて常に優しく接してくれました。本当にずっとサポートされていました。

今回一番心に残ったことは、ニュージーランドの人たちの習慣です。私のホストファミリーは4人家族でしたが、たくさんのスポーツを行っていて、一人ひとりが違う種目で活躍していました。周りに影響されないで自分がやりたいものを行っているのが魅力だと感じました。他にも、就寝時間が早く規則正しい生活をしていたり、一日の出来事を笑いながら話している様子を見たりすると、毎日充実していて幸せだなと思いました。私ももっと自分に自信をもって、やりたい事、挑戦したい事にどんどんぶつかっていきたいです。

## ～ ニュージーランド派遣レポート (抜粋) ～

### ニュージーランド派遣

遠軽高校2年 石川 侑緯 ゆうい

今回のニュージーランド派遣を通して、私はさまざまなことが分かり、経験しました。

私はニュージーランド派遣に行く前に目標、やりたい事を自分で設定しました。設定した目標は3つ、そして、やりたい事は1つ作りました。

まず目標のひとつはニュージーランドの食生活を知ることです。この目標に対して、私は達成できたと思いました。その理由は、ホストの家でさまざまな家庭料理を食べて味を知れたからです。ニュージーランドの家庭ではマッシュポテトやパスタが主食なのだと思います。そして、もうひとつ知ったことは、有名なフィッシュアンドチップスという料理はさまざまな魚を揚げて、フライドポテトと一緒に食べる料理なのですが、さまざまな魚の中で一番スタンダードな魚がサメという事を聞きすごく驚きました。また、驚きと共にサメの美しさも知る事が出来ました。

私はニュージーランドに行き、やりたい事もでき、目標も達成したのでとても良かったと思いますが、その代わりに英語の大切さも分かったので、これからは継続的に英語の勉強をし、またこのような派遣に参加したり、留学に行きたいとこの派遣を通して思いました。



### ニュージーランド派遣

湧別高校 澤 龍一 りゅういち

ダーフィールドハイスクールでは、現地の学校生活を体験させていただきました。

マオリ文化教室では、マオリ語で自己紹介をしたり、伝統的な織物づくりに挑戦したりと、未知の文化を体験することができました。プライマリースクールでは、児童が披露してくれたハカを見たことがとても印象に残っています。授業見学だけでなく、実際に授業をする機会もいただきました。日本とニュージーランドの違い・湧別高校について紹介したあと、ダーフィールドハイスクールの生徒に折り紙を使って鶴を折ることに挑戦してもらいました。慣れない折り紙に悪戦苦闘しながらも、助けを求めたり周りと協力したりして取り組んでいる姿が印象的でした。外国の学校で授業を行ったことはなかったため、子どもたちの様子を直に感じることでできる貴重な経験となりました。交流事業を通して、ニュージーランドの人々だけではなく、湧別町の学生からも多くの学びがありました。参加した生徒のサポートをしながら、同時に私自身も生徒たちから積極性や挑戦する心について学びました。今後も学びを深め、興味のあることに積極的に挑戦していきます。また今回得た気づきを生徒に伝え、彼らがより広い視野を持つ手助けをしていきたいと思っています。教育委員会、引率団、現地のスタッフの皆さまをはじめ、多くの方々の支えでとても貴重な経験をすることができました。



### 派遣に参加した中高生の保護者の声をご紹介します

- 引率の方も一緒なので、何も心配することなく参加させることができます。
- こんなに素晴らしい事業を町をあげて取り組んでいるのですから、何も迷うことなどありませんでした。全面的にサポートしていただきますので、安心です。
- 日本以外の国にお友達がいるなんて、とてもすてきなことです。一人では無理でも仲間となら意外と何とかできます。
- 訪問する国の歴史や名所などを事前に調べてから参加すると現地の生活も楽しくいつまでも記憶に残ると思います。



11/  
18

## 自然科学分析から考える擦文文化のくらし シブノツナイ竪穴式住居群遺跡調査報告会

今回は円形2基、柄鏡形1基の竪穴住居跡で発掘調査が行われ、町学芸員の林勇介さんから、形の異なる住居跡が、どれも擦文文化の後期に造られている可能性が高いことなどが報告され、密集した住居跡が何のために形成されたのかを明らかにすることが課題だと話しました。

また、北海道大学大学院文学研究院の國木田大准教授より、自然科学分析の原理や手法、そこから明らかになってくる当時の食生活などが報告され、参加者は身近にある遺跡について、新たな発見や課題が見えてきた様子でした。

ふるさと館JRY



シブノツナイ竪穴住居群は、約1,000年前の竪穴住居跡を主体とする北海道指定史跡

11/  
17・22

## 高齢者を支える地域づくり 支えあいサポーター養成講座

高齢者を支える地域づくりへの理解を深める「支えあいサポーター養成講座」が開催されました。

地域福祉に関する講義では、町社会福祉協議会の海谷政貴さんが講師となり、高齢者も支える側としての立場が必要なことや、生活の延長線上で支え合うことの大切さが話され、地域全体で取り組むことの重要性を伝えました。

認知症サポーター養成講座では、町介護支援専門員の佐藤祐美子さんより認知症の症状や支え方が伝えられ、受講者たちは、真剣な表情で話を聞いていました。

文化センターさざ波



湧別町生活支援体制整備事業として実施されました

11/  
19・26

## 湧別の自慢の一品をPR ゆうべつフェア in 道の駅

11月19日（日）に道の駅かみゆうべつ温泉チューリップの湯、26日（日）には道の駅遠軽 森のオホーツクの特設会場でホタテの浜焼きなどを販売しました。

湧別の自慢の一品を味わってもらおうと湧別町産業間ネットワークが主催したもので、ホタテ浜焼きや玉ねぎ・じゃがいもの詰め放題、牛乳の無料配布などが行われ、多くの方が訪れました。

訪れた方は、「湧別の美味しいものが、格安で味わえてうれしい」と話し、湧別の自慢の一品を堪能していました。

道の駅かみゆうべつ温泉チューリップの湯特設会場



湧別の自慢の一品が格安で販売されました

11/  
24

## 子育ての応援に チューリップの湯に授乳室が寄贈されました

日本道路建設業協会（北海道支部 三澤朗支部長）より、簡易設置型授乳室が寄贈されました。

これは、地方創生・観光を加速する拠点づくりの一助となればと毎年全国各地に寄贈されているもので、今年度は子育て支援として全国50カ所、北海道ではチューリップの湯を含む4カ所の道の駅に設置されたものです。

寄贈された簡易設置型授乳室は、温泉施設内キッズスペースに設置しており、設置の簡易さや軽量であることから災害時などにも利用可能です。ぜひご活用ください。

道の駅かみゆうべつ温泉チューリップの湯



防犯性や安全性も強化され安心して利用できます





北海道主催の「令和5年度子どもの心に響く道徳教育推進事業」



ゆうべつ学園5年生から9年生を対象に道徳教育特別非常勤講師派遣として金さんが講演しました

11/  
24

## 夢を叶えるための特別授業

栗山高校女子野球部監督の金由起子さんが講演

元女子硬式野球日本代表で栗山高校女子野球部監督を務める金由起子さんを講師に迎えたもので、部が無く野球が出来なかった時期があったことや、日本代表時の経験などから、出来る事を続けていると必ず自分に返ってくると話し、「諦めない」、「長所と短所を受け入れ努力する」、「失敗を恐れず挑戦する」ことの大切さを伝えました。

最後に、「腐らず笑顔で良いことを続けていたら、人との縁ができて良い方向に進んだ。自分が思う良いことを諦めずに頑張ってください。」とエールを送っていました。

開盛小学校



遠軽町を中心に日本の伝統的な楽器である琴、三味線、尺八の三種の楽器演奏をしている三曲協会

11/  
24

## 日本の伝統音楽に触れる

開盛小・富美小で和楽器の出前授業

開盛小学校で「三曲協会出前授業」が富美小学校との合同で開催されました。

琴、三味線、尺八の三種の楽器演奏をしている三曲協会（谷藤彌 会長）が行ったもので、三種類の楽器とは思えない多彩な音色で「さくら」などが演奏されたほか、昔話「三枚のお札」の映像に合わせ、和楽器の演奏と語りが披露されると、児童たちは物語に引き込まれていました。

体験会では、四苦八苦しながらも、音を出せるようになり、「難しかったけど、楽しかった。」と話していました。

教育委員会と公益財団法人北海道文化財団との共催



参加した子どもたちはさまざまなレクリエーションや演劇を楽しみました

11/  
25・26

## 子どもならではの発想力で

子ども演劇ワークショップ

劇作家・演出家の柴幸男さんを講師に迎えた、子ども演劇ワークショップが文化センターさざ波で行われました。

芸術的感性や発想力、想像力を養うことを目的に行われたもので、最初は緊張した様子だった子どもたちも、積極的に発言して徐々に自己表現ができるようになると、「演劇をあそぶ、見る、作ってみる」をテーマに、公園や遊園地、休み時間の教室など、周辺地域にあるものを見立てて即興で演劇作品を創っていくなかで、自由に発想して表現することの楽しさを実感した様子でした。

文化センターTOM



子どもたちに楽しくプログラミングを知ってもらおうと教育委員会が主催し、小中学生が参加しました

11/  
26

## 楽しくプログラムを学ぶ

eスポーツプログラミング教室

高千穂大学の齋藤大輔准教授を講師に招き、小中学生およそ15人が人気ゲーム「マイクラフト」を活用しながらプログラムの作成方法を学びました。

小学生は、あらかじめ用意された命令を組み合わせる方法で、中学生はプログラム言語を一から入力する方法でプログラムを作成。子どもたちは、「自分が入力したプログラムでゲームキャラクターが動いて楽しかった。もっと勉強したい。」と話すなど、プログラミングについて興味をもっていました。



11/  
26

## ふるさと湧別に思いをはせて

東京湧別会総会

湧別町出身者などで構成されている東京湧別会（後藤義英 会長）の14回目の総会が開催されました。

総会では、後藤会長より「湧別町のホタテなど水産物や観光PRの支援をしましょう」と挨拶があり、湧別町の支援が呼びかけられたほか、刈田町長より開催にあたり祝辞と町の近況について報告がありました。

総会に引き続き行われた懇親会では、懐かしい顔との再会に盛り上がり、ふるさと湧別の話題で交流や親睦を深めました。

東京都内



約60の方が参加しました

11/  
26

## 3年間の思いをのせたサウンド

湧別高校吹奏楽局定期演奏会

湧別高校吹奏楽局による15回目の定期演奏会が開催され、会場には多くの方が押し寄せました。

演奏会では、北見地区吹奏楽コンクールで金賞を受賞した曲など、局員15人の集大成となるステージが繰り広げられたほか、ゲストとして昭和音楽大学教授の福本信太郎さん、湧別高校OB・OG、エキストラの方々も参加し、美しく壮大で迫力ある演奏を披露。局員の思いがこもったサウンドに涙する観客もいて、アンコール曲の演奏が終わったあとも、惜しみない拍手が鳴り止みませんでした。

文化センターさざ波



湧高吹奏楽局として最後の演奏となる3年生の思いがこもったサウンドに拍手が鳴り止みませんでした

11/  
27

## 町の宝を祝って300人目

子どもの誕生を祝う花火

「町の宝である子どもの誕生を地域の方々と一緒にお祝いしたい」との想いから、子どもの誕生を祝う実行委員会（宮澤道 委員長）が行っているもので、この日は、誕生した山口朝躍さんのお父さん山口智毅さん、祖父母が立ち会うなか、ハッピーバースデーの音楽にあわせ富美小学校の児童が歌い一緒に誕生をお祝いしました。

智毅さんは、「自分が通った学校で、子どもたちの歌と花火でお祝いしていただきうれしかった」と話し、地域の方々と幸せをかみしめていました。

富美小学校前



お祝いをして8年、300人目のお祝いとなったこの日は、子どもたちも歌でお祝いしてくれました

12/  
1

## 認知症の方と家族へのサポートを考える

理解を広げる「つなぐカフェ」

認知症になっても安心して暮らせる町にするために、「一般社団法人繋・つなぐ」が開催したもので、湧別町としてどんなサポートをしていくのが良いかを考えるために民生委員や認知症サポーター養成講座受講者など約35人が参加。遠軽厚生病院 認知症看護認定看護師の山口麻琴さんを講師に招き、山口さんの看護経験や動画を見ながら症状や良好な関わり方を学びました。

参加者は「楽しいと感じる過ごし方が予防には大切だと知った」と話し、認知症への理解を深めていました。

文化センターさざ波



湧別町認知症総合支援事業（認知症カフェ事業）として実施されました



中湧別総合体育館



屯市チームが優勝、南町チームが準優勝に輝きました

12/  
3

## 地域の仲間と勝利を目指して

### 町民300歳バレーボール大会

48回目を迎えた町民300歳バレーボール大会が開催され、7チーム、約90人の選手が参加しました。

昨年開催できなかったこともあり、「久しぶりだから思うように体が動かない」という声も聞こえましたが、練習を重ねてきた各チームは抜群の団結力を見せ、好プレーや珍プレーに一喜一憂するなど盛り上がりました。

普段はなかなか顔を合わせる事のない方々も、大会終了後の懇親会を含め交流を深め、これまで以上に自治会の結束が深まる1日となりました。

文化センターTOM



大人から子どもまで楽しめるイベントとなっていました

12/  
3

## 手作り雑貨など44店が出店

### 冬のあったかマルシェ「ふゆまる。」

「ふゆまる。実行委員会（代表 細川佐和さん）」が主催したもので、会場にはアクセサリーやベビー用品、木工品や衣服などを扱うショップやカレーやパンなどの食べ物を提供するショップ、タコスやワッフルなどを販売するキッチンカーのほか、子どもたちも楽しめるようにとバルーンアートショーも行われました。

初めて訪れた方は、「たくさんのお店が出ていて驚いた。遠方のお店もあり楽しかったので、次も参加したい。」と話し、次のマルシェを楽しみにしていました。

今年のテーマは「富美の行事」



全校児童11人で作りあげた版画カレンダー

12/  
6

## 手作りカレンダーで元気になって

### 富美小学校が手作りの版画カレンダーを寄贈

富美小学校の児童たちが役場を訪れ、作りあげた2024年の版画カレンダーを刈田町長に手渡しました。

手作り版画カレンダーは今年で46回目を迎える富美小学校の伝統行事で、図工の時間などを使って142部を作り、町や公共施設、地域住民に配布されました。

カレンダーを受け取った刈田町長は「毎年、カレンダーが来るのを楽しみにしています。町長室などに飾らせていただきます。」と感謝の言葉を述べました。

文化センターTOM



北海道日本ハムファイターズ湧別後援会（代表 柴田洋幸さん）の主催で行われました

12/  
8

## 河野竜生選手と交流

### ファイターズトークショー

北海道日本ハムファイターズの河野竜生投手を招き「北海道日本ハムファイターズ選手交流会」が行われ、トークショーやグッズ抽選会、握手会など、充実した内容で盛り上がりしました。

トークショーでは、野球をしている子どもたちやファンの方から、練習方法や身体づくり、私生活の話などさまざまな質問が飛び交い、一人ひとり丁寧に答えていました。握手会では、本人を目の前に感激する様子が見られ、参加者にとって思い出に残る1日になりました。